

英語教育専修

中等教育履修分野

国際コミュニケーション言語の英語、および英語圏の文化に焦点を当て、国際的視野を備えた教員を育てます。

◆ 学びのポイント

1 実践的コミュニケーション能力の養成とその効果的な教え方について学ぶ

各授業を通して、英語の「読む、書く、聞く、話す」の四技能を伸ばし、実践的コミュニケーション能力を育てます。また実践的コミュニケーション能力を伸ばすための教え方を学びます。学校教育現場で必要な英語コミュニケーション能力を養成します。



2 言語の本質や異文化理解について学ぶ

すぐれた英語教員になるためには、十分な英語運用能力だけでなく、言語の本質や言語文化についての一定の見識を身につける必要があります。そこで、人間の言語にはどのような特徴があるのか考え、また言語と密接な関係にある文化や文学面から人間理解を試みます。さらに、異文化理解とは何かについて、さまざまな視点から学びます。

3 思考力を基礎にした発信力を学ぶ

グローバル化した社会における教育実践力を高めるため、英語による卒業論文作成などを通して、考える力、まとめる力、発信する力を習得します。論理的で簡潔な英語の発信を通して、教室に必要な英語運用能力を獲得します。



◆ 学びの領域

ことばと教育、文学、国際理解教育のあり方を学ぶ 4つの領域

これら4つの領域から「ことば」を捉え、探求する姿勢を養います。



英語教育専修の授業スケジュール

【2回生前期の一例】

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1・2時限	板書実践指導	初等教科教育法(生活)	生徒指導(道徳科を含む)教育相談Ⅰ(中等)		
3・4時限	外国語コミュニケーションA	初等教科教育法(国語)	異文化理解研究Ⅰ	英語文化交流論	
5・6時限	英会話Ⅰ	英米文学Ⅰ		教育方法・メディア(中等)	初等教科教育法(算数)
7・8時限	体育実技	国際英語文化教育論		音声学・音韻論	中等教科教育法Ⅰ
9・10時限	英作文Ⅰ				



英作文Ⅰ

グローバルな立場に基づき世界を把握するために、さまざまな視点からの英作文を行います。



実践英語研究Ⅰ

インタラクティブな活動を通し、日常及びアカデミックな状況に対応する高度な英語運用能力を身につけます。



英文法演習

人間の言語知識について考えます。高校で学ぶ英文法とは異なる世界を楽しめます。



言語文化研究Ⅰ

言語と文化の関わりをいろいろな視点から探求し、広い視野と柔軟な発想を身につけます。

Student's Voice 在学生の声

「奈教で多角的な学びを。Expand your perspectives with us!」

英語教育専修4回生
水名口 愛梨さん
 (兵庫県立津名高等学校出身)



私たちは、英語コミュニケーション、英文法に加え、英作文や英米文化史、国際理解教育など様々な視点から英語について学んでいます。また、高校までに学んできた他の教科内容と繋がったりすることもあり、横断的な深い学びを実感できます。私たちは、少人数授業であるため、ただ授業を聞いているだけではなく、学生主体となった英語コミュニケーションや模擬授業、プレゼンテーション、グループワークなども数多く経験します。これは、少人数だからできる利点であり、先生方との距離も近く、質問も気軽にすることができます。奈良教育大学の英語教育専修には、英語教師になるためのよい環境が整えられています。一緒に英語教師を目指しましょう。

主な開講科目

英語学概論 / 英米言語文化論 / 英米文学作品研究
 国際英語文化教育論 / 音声学・音韻論 / 英会話Ⅰ・Ⅱ
 実践英語研究Ⅰ・Ⅱ / 国際理解教育演習Ⅰ・Ⅱ / 英米文学特講
 異文化理解研究 / 言語コミュニケーション論 / 言語文化研究Ⅰ・Ⅱ

取得できる免許状

・中学校教諭一種(英語)等(P.6,7)取得できる免許状・資格)のページ参照)

卒業後の主な進路

年度により若干のばらつきはありますが、教員(小学校、中学校、高等学校)が主な進路です。教員の他には、会社員や公務員として就職したり、大学院に進学する学生もいます。例年卒業生のほぼ全員が教職、公務員、大学院等希望通りの進路に進んでいます。

教員および専門分野(令和元年5月1日現在)

- ・佐藤 臨太郎教授 / 英語科教育
 教室第二言語習得研究、英語教育学
- ・トーマス・アムンold准教授 / 実践英語教育
 言語学・談話分析
- ・門田 守教授 / 英米文学
 19世紀イギリス・ロマン派の詩および小説、文化の研究
- ・米倉 陽子准教授 / 英語学
 認知言語学、言語変化研究